

戸次本町地区(大分市) ～在町として栄えた戸次本町の にぎわいの復活をめざして～

計画期間	平成13年度 ~ 25年度
面積	7.8 ha
全体事業費	695,000 千円
市人口	475,000人 (うち地区内 250人)

まちづくりの目標

戸次本町には江戸時代末期から戦前にかけて建てられた貴重な建築物が現存し、今も活用されています。当地区では、今日まで受け継がれてきた文化の継承と歴史的な街なみの保全を図りつつ、住環境の整備を行うことにより、かつて栄えた戸次本町の再生と市(いち)のにぎわいの復活を目指しています。

主な事業内容と事業費・事業期間

主な事業内容

通路、小公園・広場、電柱美化化、案内板、道路美化化、防犯灯、道路標識美化化、修景施設整備

事業費

695,000千円

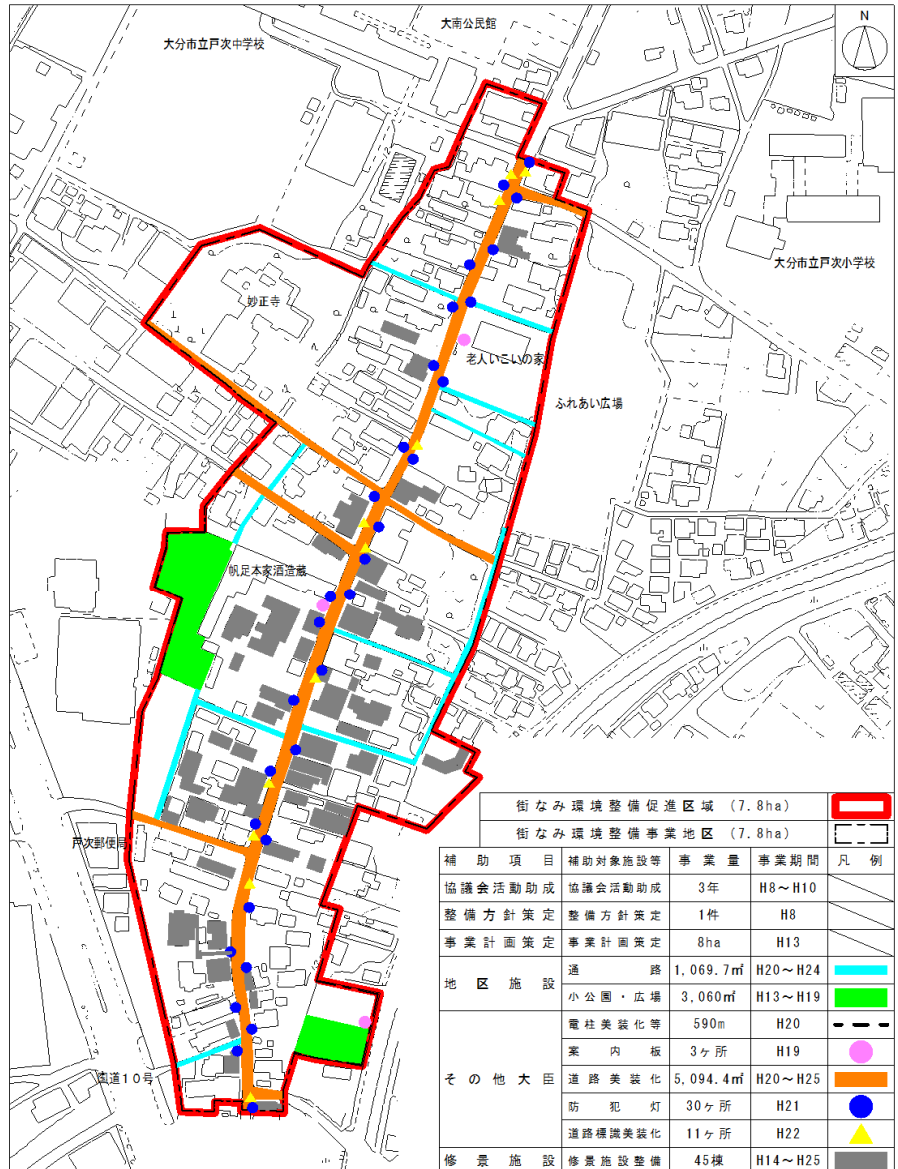
事業期間

平成13年度～平成25年度

位置図



事業概要図



酒造蔵西広場



道路美化化



町並み案内板

地区の歴史・風土

大分市の南に位置する戸次本町は、古代より大野川沿いの交通の要衝として重視され、江戸時代には城下町と対置される在郷の中心として形成された日向街道筋の在町(ざいまち)でした。また、現在でも江戸時代末期から戦前にかけて繁栄した頃の歴史的な町並みが残り、田能村竹田など多くの文人墨客が訪れ、地区固有の歴史的な文化が息づいています。



明治末期の戸次本町

地区の現況と課題

当地区の歴史的な町並みや昔の賑わいも、昨今の近代化や高齢化の波が押し寄せ住環境の悪化が懸念されていました。

事業開始10年が経った現在、修景整備も進み次第に町並みも再生し、まちづくりを通じた交流も活発になってきましたが、関連する事業との調整で通路・道路の美化に遅れが生じています。今後は狭隘な道路を行き交う車と歩行者の安全対策として側溝蓋の段差解消や景観舗装による歩行者空間の整備が急務となっています。



車が行き交い段差のある路肩

事業取り組みと成果

歴史的町並みが今も残る戸次本町にふさわしい景観形成を図り、住環境の整備を行うために、道路美化化・電柱美化化・街路灯美化化・小公園整備・修景整備等に取り組んできました。

整備が進むとともに、地区でのまちづくりの機運も高まり、地元組織による町並み案内や整備済施設を使ったイベント等を行うようになり、戸次本町を訪れる方が増えてきています。



修景整備(整備前)



修景整備(整備後)

地区の主なイベント・食

よいやかがり火

天正14年(1586)、大友・四国連合軍と島津軍との激戦が地元戸次川(大野川)で行われ、多くの死者が出たことから毎年慰霊祭が行われてきました。合戦から418年目にあたる平成16年より毎年「四一八(よいや)かがり火」と称して、戸次本町地区で竹灯籠に火を灯し合戦による犠牲者の慰霊を行うとともに、武者行列やコンサートなどを行い地域の振興を図っています。



よいやかがり火



ほうちょう(鮑腸)

鮑腸(ほうちょう)

大友宗麟公の好物「鮑の腸」が由来で、鮑が不漁となり困った家来が小麦粉こねて鮑の腸に見立てて差し出したところ、大変喜ばれたのが始まりと言われています。庶民的な「団子汁」とは対照的に、お盆や大切な来客のおもてなし料理として戸次地区に定着しました。現在は保存会により継承されています。

ごぼまん

地元戸次ごぼうを使った肉入りきんぴらごぼうをあんにした饅頭

地区のまちづくり協議会・地域の活動

平成7年度に発足し、まちづくり協定の締結をはじめ、定例会(推進協議)の開催や、「町並み瓦版」の発行、観光案内、清掃奉仕など様々な活動を行っています。また、全国各地のまちづくり関係団体との交流を深め情報交換を行っています。



町並みボランティアガイド

これからの取り組み

新たな町おこしとして地域の文化の発掘や特産品の創出をし、町並みや旧酒造蔵(市指定文化財)を活用した「市民協働のまちづくり」を行うなかで、次世代へと引き継いでゆく「人材の育成」を行っています。

事業のお問い合わせ先

大分市都市計画部
街路建設課 地区整備係
TEL 097-537-7294